

平成18年度 全肢連第39回全国大会 大会決議文

3年前に支援費制度が始まった矢先での、昨年10月の障害者自立支援法の可決・成立、今年4月からの施行と障害児者を取り巻く環境は、めまぐるしくそして劇的に変化してきました。この障害者自立支援法には原則1割負担をはじめとして、障害者程度区分の導入や施設・事業体系の再編成など、様々な変化項目が盛り込まれています。「自立支援」という法律の名前とは裏腹に、自立に対する不安・地域格差の問題等、障害児者やその家族は具体的な今後の見通しを予測できないために、精神的に不安な状態に陥っております。

このような真ただ中、私たちはここ石川県金沢市において、第39回全国肢体不自由児・者父母の会連合会全国大会を開催しました。2日間を通して、全国の父母と現在抱えている問題・不安・将来の夢を議論し、語り合い、交流する中で、法律や制度が変わっても父母の絆、またご支援していただいている社会との関わりは何ら変わることはないこと、父母同志の世代間の隔たり・子どもの障害の程度・生活環境の違いはあっても、子どもたちの幸せを願う気持ち、共に歩み子どもの将来を真剣に考える気持ちに、違いはないことを確信いたしました。

諸先輩方の並々ならぬご努力・社会の寛容な理解により、福祉環境整備が行われてきました。学校や福祉施設において、様々なサービスを受けることができ、子どもが自発的にできる喜びを見つける機会に恵まれるようになりました。しかしながら、現状が当たり前だと勘違いしてはいけないとも考えております。

肢体不自由児・者父母の会連合会は、時代が求めるニーズの中から生まれ、様々な役割を果たしてきました。今後も過去の歴史を諸先輩方から学び、次の世代に伝え、時代の変化に負けないようにお互いに勉強し、子どもがより良い社会環境で生きていくために、時代にあった使命・役割を担い、父母同志が切磋琢磨し最善を尽くし、一步一步着実に前進していくことを決議いたします。

平成18年6月18日

第39回全国肢体不自由児・者父母の会連合会全国大会
第41回全国肢体不自由児・者父母の会連合会東海北陸ブロック石川大会